

共助 ～助け合える『つながり』～

校長 高橋 馨

この度の台風により被災された八丈島の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

分教室がある八丈高校は、強風によって扉や天窓、換気扇などが壊れ、水浸しや泥だらけの部屋がいくつもありました。避難所が設置された体育館も屋根の一部がめくれあがり、雨漏りで半分近いスペースが使えない状況でした。そうした中、分教室と高校の先生方は、自身も断水や物資不足といった厳しい状況に置かれながらも、被災した学校の再開に向け復旧・整備を進めてくれました。

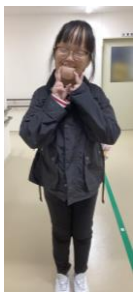
災害時の対応として「自助」「共助」「公助」という概念があります。今回のように他地域からの応援が届きにくい島での災害では、「共助」が大切になることを強く感じました。「自助」はできる事も量も限られます。「公助」は清掃など生活に身近な細かい部分是对応できないことが想定されます。こうした限界や細かいニーズに寄り添うことができるのが「共助」による助け合いです。調べてみると、内閣府の防災に関する意識調査でも「共助」への意識の高まりが報告されていました。

学校の防災を考えるうえで、いざという時に「共助」で支え合える関係を築いておくことは、とても大切なことです。そのためには、日頃から顔の見える関係をつくり、何かを一緒に取り組む経験を通して、お互いを理解し合うことが必要です。こうした『つながり』が、非常時に大きな力となります。本校では、PTAをはじめ、保護者同士のつながりや、自治会・大学・関係施設などとの連携を通じて、地域との『つながり』を広げています。これからも『優しく』を基本に、こうした『つながり』をさらに深めていく活動を進めてまいります。今後とも、皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

カジュアルデー



10月21日(火)にカジュアルデーを実施しました。昨年度に引き続き、今年度も生徒会が中心となり、ポスターやクイズなどを企画し、卒業後の生活にふさわしい服装について考える機会となりました。保護者の皆様、御協力ありがとうございました。



八丈分教室より 台風22号・23号の被災と復旧について

10月9日(木)に上陸した台風22号。「最大瞬間風速54.7m/秒、降水量335.0mm/日」という暴風と豪雨がもたらした甚大な被害に島全体が揺れ動きました。分教室がある八丈高校でも停電と断水、校舎の屋根や壁、ドアが吹き飛び、雨風が室内に吹き込み、校庭のヤシやガジュマルが根こそぎ倒れました。教職員が協力して復旧作業を進め、10月20日(月)から授業を再開することができました。まだまだ時間がかかりますが、皆で協力して少しずつ日常を取り戻していきます。



扉が飛ばされた生徒玄関



体育館の雨水をバケツリレーで排水する生徒